

**CASBEE 広島 2016年版**  
**千田水資源再生センター管理棟別館(仮称)**

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>3.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>4.4</b>	0.15		-		<b>4.4</b>
1.1 室内騒音レベル		一般事務室(会議室): 45dB		<b>4.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>5.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能		外部鋼製扉遮音性能: T-2以上		5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		Dr-50		5.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		各事務室: 床タイルカーペット、天井ロックウール化粧吸音板の二面		<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.1</b>	0.35		-		<b>3.1</b>
2.1 室温制御				<b>3.2</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能		高性能断熱材、ガラスの採用		4.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.8</b>	0.25		-		<b>3.8</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御		ブラインド、庇を設置		4.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-		
3.4 照明制御		1作業単位で制御が可能		<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.1</b>	0.25		-		<b>4.1</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		内装及び天井裏面にF☆☆☆☆を使用している		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				<b>2.6</b>	0.30		-		
1 換気量		居室については、30m <sup>3</sup> /人以上の換気量を確保している		4.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		施設全体を禁煙にしている		5.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>		-		<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.5</b>	0.40		-		<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.6</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性		居室面積/居住人員=1791.07m <sup>2</sup> /155人=11.5		4.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高さ: 2.8m		4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		休養室/床面積=1%以上		4.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>4.5</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性のある内装仕上、埃溜まりなし、風除室扉間隔離確保等		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		清掃用資材の確保、共用部での維持管理作業等		4.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.3</b>	0.30		-		<b>4.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>4.8</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		用途係数=1.50		5.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		空調室外機置場等に防振架台の設置している。		4.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.3</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数20年以上の内装材を使用(ビニル床シート、ビニルクロス)		4.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		被覆鋼管、塩ビ管、SUS管を使用している。		4.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		耐用年数の長く保守点検が可能な機器を使用している。		4.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>4.6</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備		省エネ型の機器を使用している。		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水型の機器を使用している。		5.0	0.20		-		
3 電気設備		長寿命のLED照明器具を採用している。		4.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAの支持方法を採用している。		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化を図っている		5.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	3.7
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.5m	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	(2F外周長さ148.00-非空調コア部26.39=121.61m)/(床面積911.24)	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井スペースが確保されており、空調配管の更新及び修繕ができ	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	専用のEPSを設置している。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	専用のEPSを設置している。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	3.5
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>5.0</b>	0.40	-	-	5.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.6
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	3.6
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			[BPI][BPI <sub>m</sub> ]= 0.77	5.0	0.20	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	0.10	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEI <sub>m</sub> ]: 0.75	3.5	0.50	-	3.5
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.9
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	3.4
<b>1.1 節水</b>				4.0	0.40	-	
節水型の機器を使用している。				4.0	0.40	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.2</b>	0.60	-	-	4.2
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				3.0	0.10	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				3.0	0.20	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			地中梁に高炉セメントを使用	5.0	0.20	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			再生砕石、陶磁器タイル、ボード	5.0	0.20	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	0.10	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			躯体と仕上げが容易に分別可能、OAFフロア等の採用	5.0	0.20	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	3.8
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			F☆☆☆☆を全面採用	5.0	0.30	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				3.3	0.70	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を使用していない	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.2
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			省エネ型の機器を使用している。	3.7	0.33	-	3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.1	0.33	-	3.1
<b>2.1 大気汚染防止</b>				3.0	0.25	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				3.0	0.50	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				3.7	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	条例基準を満たす駐車場設置	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	分別回収を推進	4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				3.0	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	